

授業科目の内容

令和 6(2024)年4月現在

※授業科目及び担当教員については変更の可能性があります

科目 区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
共通 科目	人文科学特論 渡慶次正則・坪井祐司 小嶋洋輔・屋良健一郎 2 単位	言語知識や言語習得、発音とアイデンティティ、言語習得と年齢などの学会で注目を集める題目について話し合う。日本史の資料に基づいて、史実を導き出すために議論を行なう。日本近代文学を中心に研究方法や社会制度の変遷から小説を読み解く。欧米社会とは異なるコンテキストを持つ東南アジア地域の地域研究を検討し、議論を行なう。
	社会科学特論 木村堅一 2 単位	社会科学の基本理論と方法論を総論的に紹介し、特に社会心理学に焦点を当てて人間関係や社会構造の心理学側面を分析する。そのうえで、理論を現実の社会問題に適用し、解決策を探る実践的な論文を精読する。
	学術研究方法特論 担当教員代表 国際文化研究科長 ※オムニバスで実施 2 単位	修士課程における初期段階の研究テーマの設定、参考文献の収集、研究倫理、基本的な研究方法である質的研究方法と量的研究方法、基本的な学術論文作成方法等について学習し、研究デザインを完成させる。

科目 区分	授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際文化研究演習 I 嘉納 英明 4 単位	①修士論文のテーマを設定し、そのテーマに関係する先行研究（文献）を集め、分析的に読む。 ②研究方法の検討と確定、資料収集を進める。 ③主にディスカッションを通して、論文全体の構想をつくり、修士論文テーマ発表会と1 年次終了発表会に備える。
	国際文化研究演習 I 渡慶次 正則 4 単位	研究テーマを決定し、実証的データを収集できるようにする。修士論文テーマ発表会と1 年次終了発表会に備える。
	国際文化研究演習 I 高嶺 司 4 単位	修士論文の作成へ向けた準備段階のセミナーで、修士論文のタイプ、作成目的、研究を進める上での予見できる問題点、主題の選定、研究計画（リサーチ・プロポーザル）、論文の構成、論文の書式などについて、関連文献やディスカッションを用いながら学ぶ。
	国際文化研究演習 I 小番 達 4 単位	修士論文のテーマを設定し、これに基づいて作品を考察し、先行研究を体系的、分析的に読み解く。また、ディスカッションを通し、論文執筆に向けて研究の深化を図る。
	国際文化研究演習 I 小嶋 洋輔 4 単位	①学生が目指す研究の全体像を客観化し、その上で修士論文のテーマを設定する。 ②修士論文のテーマに関係する先行研究を集め、分析的に読む。 ③テーマに関係する作家、文学作品を改めて選定、網羅的に読む。関連する理論、関連分野の先行研究についても把握し、網羅的に読む。 ④主にディスカッションを通して、論文全体の構想を作り、修士論文テーマ発表会と1 年次終了発表会に備える。
	国際文化研究演習 I 照屋 理 4 単位	歴史学の修士論文を書くためには史料の収集・読解は不可欠である。史料を読む力を身につけるために、この演習では、日本史・琉球史の史料の講読を行う。また、先行研究を読むことで、歴史学の論文がどのようなものを理解し、論文の書き方を学ぶ。
	国際文化研究演習 I 坪井 祐司 4 単位	修士論文のテーマを決定し、そのテーマに関する文献（先行研究）の収集・読解を通じて研究課題を確定し、その課題を解明するための方法論を検討する。修士論文テーマ発表会および1 年次終了発表会での準備を通して、プレゼンテーションの技術を磨く。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化領域	国際文化研究演習Ⅰ 屋良 健一郎 4 単位	歴史学の修士論文を書くためには史料の収集・読解は不可欠である。史料を読む力を身につけるために、この演習では、日本史・琉球史の史料の講読を行う。また、先行研究を読むことで、歴史学の論文がどのようなものかを理解し、論文の書き方を学ぶ。
		国際文化研究演習Ⅰ メーガン クックルマン 4 単位	This course will introduce students to the principles and methods of graduate-level research and writing in English literary studies. Discussions during the first part of the course will focus on instructor-selected texts related loosely to the student's research project. In the second half of the course, discussions will center on student-selected texts directly connected to the student's project. Students will ultimately write a 10-page prospectus
		国際文化研究演習Ⅱ 嘉納 英明 4 単位	言語文化研究演習Ⅰに引き続き、修士論文の作成を指導する。 修士論文中間発表を経て、修士論文を完成させることを最終目的とする。
		国際文化研究演習Ⅱ 渡慶次 正則 4 単位	修士論文のリサーチ・プロポーザルを完成させ、中間発表を経て、修士論文を完成させることを目的とする。
		国際文化研究演習Ⅱ 高嶺 司 4 単位	修士論文の完成へ向けたセミナーで、社会制度政策研究演習Ⅰで終了した作業を踏まえ、修士論文の総仕上げと校正を行う。
		国際文化研究演習Ⅱ 小番 達 4 単位	論文概要に基づき、中間発表を経て、修士論文の完成まで指導する。
		国際文化研究演習Ⅱ 小嶋 洋輔 4 単位	1 年次で行った作業に基づいて、修士論文を完成させることを目的とする。
		国際文化研究演習Ⅱ 照屋 理 4 単位	琉球文化圏（奄美～八重山諸島）における民俗（染織、住環境、食文化等）、文学（伝説、昔話、歌謡、呪文等）、言語（琉球語・方言。特に歌謡語）、芸能（琉球芸能、組踊、沖縄芝居等）事象を対象とした研究指導を行う。
		国際文化研究演習Ⅱ 坪井 祐司 4 単位	修士論文を完成させる。1 年次で決定した方針に基づき、調査によるデータ収集および分析を行い、ディスカッションを通じてその結果を客観的な議論として提示する。論文執筆における書式や作法を修得し、調査結果を論文へと仕上げていく。
		国際文化研究演習Ⅱ 屋良 健一郎 4 単位	先行研究の成果と課題を把握し、修士論文で扱うテーマを決定する。修士論文で扱う史料を収集・読解し、論文の執筆を行う。
		国際文化研究演習Ⅱ メーガン クックルマン 4 単位	This course will continue to sharpen the skills of graduate-level research and writing in English literary studies that were introduced in the Seminar I. In addition, the principles of primary text analysis will be introduced and practiced. The theory and secondary research conducted during the 1st semester will be used to better understand the primary texts under examination.
		言語学特論Ⅰ 2 単位	世界最大の英文法書を講読し、英文法体系を概観していく。英語学研究のホットトピックに触れ、諸分野における研究課題と問題点を議論する。
		言語学特論Ⅱ 2 単位	本講義は、音声学の中でも特に調音音声学について学び、実践するものである。ある言語の調査、研究あるいは指導を行う場合、その言語が音声言語であるならば音声学の知識が不可欠である。講義は教科書を用い、各回で指定された範囲を担当受講者がまとめて発表するという形式で進める。受講者自身が、どのように言語音を発しているか、国際音声字母（IPA）のどの音を使用しているか等内省・観察する。日本語・英語を含む世界の様々な言語音について扱う。

科目 区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際 文化 領域	言語学特論Ⅲ 2 単位	20 世紀から現代に至るまでの言語科学の諸分野を概観し、言語学の主要な研究課題を理解する。文献の読解と批判的検討を通して、認知科学の一領域としての言語学の研究背景と射程を把握し、得られた知見を受講生自身の研究へ活かすための視座を養う。
		英文学特論 2 単位	This course will cover British poetry from Shakespeare to Contemporary. “British” will be loosely interpreted to mean writers within and without the UK proper, including those, such as Ali Cobby Eckerman, who were born in the British Commonwealth and whose lives were radically impacted by the British Empire. The focus of the course will be on the various ways that poetic form frames and creates meaning in poetry.
		米文学特論 2 単位	This course will focus broadly on 20th Century American Modernism, defined very loosely as 1910-1945. Poetry and fiction will be considered alongside theoretical texts from both the early and later century. In addition to the “high” Modernist writing of Eliot, Williams, and Pound, special attention will be paid to the Harlem Renaissance and the avant-garde texts of Gertrude Stein and Djuna Barnes.
		アメリカ詩特論 2 単位	This course will cover two book-length poems from the post-war period of American poetry, broadly referred to as Post-Modernism. The course will introduce students to Post-Modern trends in American literature, focusing specifically on conceptions of subjective experience in poetic texts and how the poetic “I” is formed through language.
		アメリカ小説特論 2 単位	This course will explore in detail both the conventions and experimentations in English fiction writing. The course will focus on two pieces of American fiction: the novel <i>Their Eyes Were Watching God</i> (Zora Neale Hurston, 1937) and the short story collection <i>Woman Hollering Creek</i> (Sandra Cisneros, 1991). Specifically, the course will focus on the construction of female subjectivity in traditionally marginalized and borderlands communities within American culture. It will also address the fictional modes of the novel and the short story and consider the ways in which each mode impacts the subject matter of the text.
		地域言語学特論 2 単位	本講義は、南琉球宮古語伊良部島方言の記述文法書を読み、①記述言語学とはどのような研究分野か、②琉球諸語の特徴、あるいは琉球諸語の 1 方言としての伊良部島方言の特徴は何か、③1 言語の文法書とはどのように書かれているか学ぶものである。講義は教科書を用い、各回で指定された範囲を担当受講者がまとめて発表するという形式で進める。受講者自身は、伊良部島方言にどのような言語現象が見られるか、母語を含み知っている言語に類似する現象はあるか等内省や先行研究に当たり考察し、その現象が世界の言語の中でどのような位置づけなのかを学ぶ。
		英語教授法特論Ⅰ 2 単位	英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点を当てる。 第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返る中で、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日、幅広く受け入れられている教授法などについて理解を深める。同時に、英語の 4 技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法、教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する機会とする。教材は英語で書かれた教材を利用し、授業は殆ど英語で行われる。
		英語教授法特論Ⅱ 2 単位	英語教授法に関わる分野についての知識と理解を深め、特に英語を母語としない学習者を対象とした英語教授法に焦点をあてる。 第二言語教育や外国語教育の歴史を振り返るなかで、時代を代表する教授法について、及び教授法の発展について学び、今日幅広く受け入れられている教授法について理解を深める。また、同時に英語の 4 技能を向上させるための過去、現在の教授法について、さらに評価法や教材、授業方法、シラバスなど具体的項目について学習する。教材は英語で書かれた教材を使用し、授業は殆ど英語で行われる。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化領域	英語教育評価特論 2 単位	4 技能の評価方法を中心に、評価の妥当性や信頼性、実用性を話し合う。教室や教室外における現在の評価の問題（issues）を取り上げる。
		リサーチ方法特論 2 単位	社会科学や人文科学における質的研究と量的研究の基礎的な知識と技能を身に付け、リサーチプロポーザル完成の支援をするリサーチの概論コース。修士論文の構成や論文作成上の留意点を話し合う。
		第2言語習得特論 2 単位	過去の研究成果から次の点を学ぶ。 (1) 第2言語がどのような過程で習得され、どんな種類のインプットやインタラクションが習得につながるのか (2) 社会的な要因と第2言語習得についての研究成果を学ぶ。 (3) 第2言語習得の個人差はどのようにして生じるか。
		教育学特論Ⅰ 2 単位	①戦後日本の教育学研究の知見の習得の作業を行い、基礎的な知識を学ぶ。 ②論文作成の基礎技能である、先行研究や一次資料を活用したテキストの作成、読みを図る。
		教育学特論Ⅱ 2 単位	戦後日本の教育学研究の基礎的な文献を分析的に読み進めながら、特に、「問題・論争」となった点について受講生の「発表」を行ってもらい、それをもとに討議を行う。占領下の沖縄の教育（制度）問題も視野に入れる。
		東南アジア文化特論 2 単位	人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析を前提に発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。テキストの論文集からいくつかの論文を選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。
		中南米文化特論 2 単位	ラテンアメリカは、日本から地理的に最も遠いという理由で馴染みの浅い地域でありました。しかし、世界的に見た場合そのプレゼンスは大きいものです。たとえば経済の規模は東アジアに匹敵しますし、混血社会は対立をはらみながらも人間社会の一つのありべき姿を代表としています。今日の民族的、宗教的な地域紛争の解決のモデル地域になる可能性を含んでいるかも知れません。また、ラテンアメリカは数多くの独創性に富んだ思想、文学、芸術を生む舞台でもあります。政治、経済、社会研究においても多くの優れた成果を生み出してきました。つまり、我々はラテンアメリカから多くのことを学べるのです。
		日本古典文学特論 2 単位	本講義では『平家物語』の成立をめぐる問題を考える。作品の成立を考えるには、いわゆる5W1Hの各要素が対象となるが、ここでは異本本文の創作・編集動機（なぜ）、そして成立過程（どのように）の要素を基軸に考えてゆく。『平家物語』をはじめとする軍記文学にあつては、膨大な異本（諸本）を有することがその特徴の一つになっている。それらの異本を総体的に捉えることは難しいため、一異本をキーテキストとして考察対象に定め、そのテキストをめぐる、先行する『平家物語』の他の異本本文や他の軍記文学本文、さらに外部文献—先行する文学作品、歴史資料（記録・史書等）、思想関連資料（経典・寺社縁起等）等々の直接的あるいは間接的な受容の様態を具体的に解き明かしてゆく。 なお、本講義は、受講生の調査報告に基づき、ディスカッションを繰り返しながら進めてゆく。

科目 区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際 文化 領域	日本近代文学特論 2 単位	日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」（本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。具体的には、扱う作品に対して「発表」を行ってもらい、それをもとにして討議を行うものである。
		日本史特論 2 単位	この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。
		沖縄地域文化研究特論 2 単位	本演習は、琉球・沖縄における言語・民俗・文化のさまざまな表象について、琉球文化圏において成立した文献（歴史文書や歌謡等）を通して論じる。 対面では、毎回リアクションペーパーを提出させる。
		異文化接触特論 2 単位	構造主義の観点から、「他者」について概観し、異質なものとの接触により起きる文化変容と受講生の日常と「異化」について講義する。また、「他者との接触」を通して人起こりうる化学反応について、沖縄の問題と絡めて考察する。
		琉球歴史学特論 2 単位	この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。
		琉球文学特論 2 単位	本講義は、琉球・沖縄における言語・民俗・文化に基づく文芸表現について、呪詞や歌謡を通して論じる。 対面では、毎回リアクションペーパーを提出させる。
		国際政治特論Ⅰ 2 単位	過去 30 年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において、グローバル化と称される「地球規模のスケールをともなった相互接続」が顕著となってきた。本講義では、グローバル化(Globalization)をキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。具体的には、地域統合、国際貿易と金融、安全保障、民主化と人権、貧困と開発、環境問題、NGO 運動、情報通信革命、テロリズム、捕鯨問題、文明の衝突といった問題に焦点をあてながら現代の国際情勢を解説する。
		国際政治特論Ⅱ 2 単位	21 世紀の時代を生きる私たちは、次から次へと発生する国際問題についてどのように理解し、また、どのように対処するべきなのか。こうした問いを念頭に、本特論では、私たちが現在の国際問題を理解するための有効な手段としての「国際政治理論」、及び、そうした問題にどのように対処し、平和で繁栄しかつ住みやすい国際社会を実現するための政策を作る上で重要な「国際政治の分析アプローチ」を、下記講義テーマごとに詳しく解説する。
		国際関係特論Ⅰ 2 単位	本講義では 21 世紀初頭の急速な経済成長を背景に、国際社会における存在感を増しているインド太平洋諸国（日本、中国、台湾、南北朝鮮、インド、オーストラリア、ニュージーランド、ASEAN 諸国、南太平洋島嶼国など）の国際関係を考察する。インド太平洋地域の複雑でダイナミックな国際関係を、政治外交、経済協力、民主化、社会変動、領有権争い、安全保障といった多角的な視点より考察し、21 世紀の地球社会におけるアジア太平洋地域の役割と可能性及びその限界を展望する。
		国際関係特論Ⅱ 2 単位	本講義の前提科目である国際関係特論Ⅰでの事例研究で得られた知見をもとに、インド太平洋地域の国際関係における課題、争点、ダイナミズムを国際関係理論の枠組みを用いながら考察し、現状の問題点の把握と近い将来の展望を提示する。さらに現在の国際政治学会における有力な理論、方法、見解、実証例などを詳しく紹介し、この地域が抱える国際問題や紛争の解決に向けた政策提言を行える能力を養成する。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際文化領域	東アジア地域特論 2 単位	本講義は東アジア地域の政治・社会について、特に戦後から近年までの当該地域における国民国家形成と政治変容をとり上げ、政権党の政治的イデオロギーが教育政策や言語政策を含む広義の意味での文化政策にどのように反映されてきたのか—国家・政治・文化の不可分の関係性—に焦点を当てて検討してみたい。本講義では、主に中華圏の社会とする東アジア地域とするが、中国大陆だけではなく、台湾や香港といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座において検討することで、周辺からの地域研究とその手法について考える糸口としたい。
		国際文化特別講義 2 単位	国際文化領域が提供する授業科目以外で、等領域に該当または類似する科目を特別講義として開講する。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	国際観光産業研究演習Ⅰ 新垣 裕治 4 単位	本演習は、主に自然環境の保全と活用に焦点を当て地域を抱える課題等をテーマとし、様々な現状の分析や課題・問題を解決するための調査研究を行う。演習Ⅰでは、先行研究や現地視察等を通し、課題の把握とテーマの設定を行う。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 大谷 健太郎 4 単位	本演習のテーマは「地域における望ましい観光のあり方」であり、地域振興やまちづくりの中で観光を位置づけ、政策立案ができる能力を身に付ける。そのためには、観光学はもちろん、基本的な経済学の知識が必要であり、統計分析ができる能力や政策科学の学習も必要である。さらに、問題を細微にわたって分析できることと、常に広い視野を持ってポイントを押さえることも要求される。 したがって、本演習では、理論と実践の意味連関を重視し、可能な限りフィールドワークによって実践力を身に付け、単なるレポートや論文でない、「生きた」方策が論理的に組み上げられるように訓練する。また、論文の基本的なルールからはじまり、構成や引用、先行研究のまとめ方など修士論文に必要な基礎力もあわせて指導する。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 木村 堅一 4 単位	本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 金城 亮 4 単位	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 仲尾次 洋子 4 単位	本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を修得する。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 中里 収 4 単位	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといったコミュニケーションに関する現象を扱う。 前半は主に文献研究や発表練習を行う。 後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 林 優子 4 単位	本演習は、経営戦略分野の研究を行う。修士論文の作成にむけて、演習Ⅰでは、先行・文献研究を進め、研究課題・目的の明確化を目指す。
		国際観光産業研究演習Ⅰ 宮平 栄治 4 単位	国際観光産業研究演習Ⅰでは、修士号学位請求論文に必要なテーマ選定、研究方法、参考文献収集の仕方、批判的読解および発表の方法を学ぶ。

科目 区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際観光産業領域	国際観光産業研究演習Ⅱ 新垣 裕治 4 単位	国際観光産業研究演習Ⅰで行ってきた内容を充実発展させ修士論文としてまとめることを目的として行われる。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 大谷 健太郎 4 単位	国際観光産業研究演習Ⅰに引き続き、同様のテーマで修士論文を執筆する。演習Ⅰで得た内容を発展させ修士論文にまとめ上げることを最終的な目標とする。 また、修士論文の途中経過をまとめ、学会発表などに投稿する論文の指導も併せて行い、論文に必要な基礎力もあわせて指導する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 木村 堅一 4 単位	本演習は、国際観光産業研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数値化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 金城 亮 4 単位	本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 仲尾次 洋子 4 単位	本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 中里 収 4 単位	本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。
		国際観光産業研究演習Ⅱ 林 優子 4 単位	本演習は、経営戦略分野の研究を行う。演習Ⅱでは、先行研究を踏まえて、研究課題や研究目的を明確化し、修士論文の完成に取り組む。
		経営情報研究演習Ⅱ 宮平 栄治 4 単位	研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。
		観光開発特論 2 単位	観光開発は、地域振興を目的とした観光政策であるので、本講義では公共の利益を重視した公共政策的アプローチを採用する。したがって、観光開発の目的を社会的厚生を最大化とし、観光開発が経済社会や環境、文化に与える影響をはじめとする開発と地域との関係に重点を置き、望ましい開発の理念と手法の説明を中心として講義を進める。本講義では、まず、国内的・国際的に汎用性のある観光開発の概念や仕組みを総論的に学ぶ。その後、方法論として観光開発の計画評価に必要な社会的費用便益分析や多基準分析、地域計画実践の際の需要予測手法や多変量解析手法などについての考え方を説明し、具体的事例を用いながら評価方法の技術的側面の理解をめざす。
		観光政策特論 2 単位	近年、観光立国推進基本法をもとにインバウンド・ツーリズムの推進や地域振興などをキーワードにして新たな観光立国推進基本計画が施行された。観光による地域振興の目的は、国および地域の魅力増大によって来訪者が増加し、観光の地域経済的および社会的効果を最大化することにある、その効果を予測および検証する政策評価の過程などが重要である。本講義では、第一に国内外における観光政策立案方法と事例を概観する。その後、政策立案に関わる事前評価および政策実行の効果に関わる事後評価の政策マネジメントサイクルを理解し、観光による地域振興を目的とした観光政策の評価手法の講義を行う。

科目 区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際 観光 産業 領域	観光文化特論 2 単位	本講義では、観光という人間行為の本質的なトピックを文化と関連づける研究成果に学びながら、前半では、観光と文化に関する理論的枠組みのディスカッションを中心に、後半では、世界の地域別事例研究から観光と文化の有機的動態を読み取っていくものである。
		観光資源特論 2 単位	観光資源には自然景観などの自然資源と文化的・社会的資源の人文資源に大別できる。本講義は主として後者に「文化」の視点からスポットを当てる。有形・無形観光資源の歴史の変遷とそれを取り巻く社会変化を連動させながら、世界各地の事例から観光資源への人類学的意味づけを行なうものである。
		観光市場分析特論 2 単位	本講義では、観光市場分析のために必要な基礎理論として、行動科学や経営学等のマーケティング基礎知識と市場分析の諸方法を理解し、観光・ホスピタリティ産業やリゾートなどの市場分析へ応用するための方法を学ぶ。日本における国内観光と海外観光に関する観光市場の現状と動向、観光産業と観光関連産業や観光地などの動向等、観光統計データに解説を加えながら、その分析手法について理解する。
		ホテル経営特論 2 単位	沖縄の観光業の発展と、その中核であるホテル業がどのように変化し発展してきたかを学びながら、グローバルな視点から、優位性、問題点を大学院生と論じていきたい。 その中で、ホテル業のマネジメントスキル、オペレーションスキルを講義していきたい。
		島嶼文化特論 2 単位	日本の周辺に位置する沖縄県のような島嶼社会の場合、中央に対する求心力と「外」に対する遠心力の両方の力が作用している。島嶼社会は規範文化から「周辺的な位置」にいただけでなく、市場経済においても中央の支配を受けやすい。沖縄のような島嶼群からなる社会が持つローカリティー性について学習し、どういう開発の仕方が望ましいのか考察していく。
		エコツーリズム特論 2 単位	エコツーリズムとは、一般的には「訪問地の自然・文化をより深く知り、学び、自然・文化の保護・保全と地域振に貢献する観光形態」と理解される。エコツーリズムは従来の観光の反省に立って考えられた観光の一形態であり、これまでの観光のイメージを大きく変える可能性を持っている。 本講義では、エコツーリズムの概念、ツアー事例、エコツーリズム資源と構成要素等を通してエコツーリズムへの現状についての理解を深め、これを基にエコツーリズムの課題について考察していく。
		観光社会学特論 2 単位	観光は社会における一つの事象であることから、観光を理解するためには社会学のアプローチが必須となる。観光という事象を取り巻く経済、文化、政治、環境、労働、そして地域と産業、メディアなどの関係性を解説しながら、観光を通した現代社会の特徴や問題点などを論じる。
		観光環境特論 2 単位	優れた自然環境や特徴的な環境は、重要な観光資源・観光対象となり得る。こうした環境を対象とする観光は、人間の環境に対する解釈や価値観が表象される行為である。観光の場に表れる環境に関する我々の態度と観光対象としての環境の価値について理解することは、新たな観光形態の開拓に加え、オーバーツーリズムや観光開発による環境問題等について考察する際にも必須となる。本科目は、環境の中での人間の存在の特性を参照しながら、観光の場に表れる人間と環境との関係について解説する。

科目 区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領 域 科 目	国 際 観 光 産 業 領 域	地域開発政策特論 2 単位	経済のグローバル化、高度情報化（IT 革命）の急速な進展に伴って地域の経済環境は大きく変化しており、従来の中央集権的タテワリ行政システムの中で地域の開発政策を考えるのは困難である。 本講義においてはこうした状況を踏まえ、経済的自立の条件とは何か、産業集積のメカニズムとは、競争優位を創出するためには何が必要か等、地域の視点（「地方の時代」）から経済の発展について考えていく。後半は実際に沖縄振興開発計画等にふれつつ、開発政策が沖縄の経済的自立にどう影響しているかについて考察していく。
		地方自治特論 2 単位	本講義では、地方政府とも言われる地方公共団体について、「地方自治特論」という講義名称のもとで、日本国憲法による地方自治の保障の意義、自治体の仕事（これは一般に「事務」といわれる）とこれを行う組織の仕組みや特徴、自治体の仕事の中でも特に重要な役割をもっている条例制定の問題、自治体における住民の地位や権利の種類や内容について、それぞれの制度趣旨・制度内容を明らかにするという観点から、講述していきたい。これらのことを学ぶことを通じて、地方の政治・行政への理解を一層深めることができるようにしたい。
		経済政策特論 2 単位	経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然災害に対する対応から少子高齢化への対応のような課題である。また、証拠に基づく政策策定(Evidence Based Policy Making)では、政策の定量的評価が求められる。例えば、成長力向上策では、税金や人的資源などの Input が成長力を向上させたのか(Output)だけでなく、人びとの幸福を高められたか(Outcome)で評価される。データ収集の特徴としては自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本と欧米の経済政策の違い等を学ぶ。
		国際経済特論 2 単位	この授業は、国際経済の基本概念について学ぶことを目的としています。テーマは大別して、国際貿易に関するものと国際金融及び外国為替に関するものに分かれます。授業ではこれらについて幅広く包括的に学習することになります。なお、この講義を受講することにより、受講者が国際経済に関する新聞やニュース記事等の内容が以前よりも容易に理解できるようになることが期待されます。なお、以下のシラバスの内容は完全なものではなく、授業の進展度や学生の理解度に応じて若干の変更もありえることに留意してください。
		産業政策特論 2 単位	後発国が産業を生成・発展させ先進国に追いつくためには、市場の失敗等により、市場メカニズムを利用するだけでは難しいことが東アジアの経験より明らかになっています。この講義では、日本を始めとする東アジア各国が先進国へ移行する過程で採用してきた産業政策や先進国でも行われている産業政策について勉強していく予定です。また「沖縄振興体制」下の政府からの補助金の仕組みや制度の役割等についても触れていきます。

科目区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域科目	国際観光産業領域	経営戦略特論 2 単位	この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。
		比較経営学特論 2 単位	経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R.H. コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O.E. ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A.D. チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。 本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。
		産業組織心理学特論 2 単位	本講義では産業・組織的場面における人間行動について、個人的及び環境的要因の観点から検討する。職業適性、働くことへの動機づけ、消費者意思決定、組織運営に関わるリーダーシップ等の課題についてグループ・ダイナミクス研究の知見を交えつつ考察していく。
		会計学特論 2 単位	企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとして IFRS（国際財務報告基準）の導入が必要とされている。本講義では、IFRS を念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、財務諸表分析のケーススタディを行う。
		マーケティング特論 2 単位	本講義の目的は、地域・都市の再生や地域におけるビジネス・イノベーション、SDGs など近年の地域の事例を取り上げ、「地域創生」という地域に新しい価値を生み出す仕組みをマーケティングの視点から考えていきます。学生皆さんと共に「マーケティング」という学問から「地域創生」について考えていく講義を行います。
		経営活動情報特論 2 単位	情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策を考察する。毎回ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を講読してまとめを発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材を調べ、発表し意見交換する。 本講義は経営情報システムの仕事に携わった経験を活かして、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。 また、ICT を活用して講義や学生への連絡を行う。 本講義は、対面演習を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン講義とのハイブリッド型で実施する。
		e-ビジネス特論 2 単位	インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Web マーケティング、e-ビジネス、e-コマースの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。 本講義は情報システムの仕事に携わった経験を活かして、実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。 また、ICT を活用して講義や学生への連絡を行う。 対面演習を基本とするが、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン講義とのハイブリッド型で実施する。

科目 区分		授業科目名・担当教員・単位数	授業科目の概要
領域 科目	国際観光産業領域	情報交流特論 2 単位	本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。 前半は文献購読を中心に、対話に関する理論やコンピュータでデータを処理する方法を学習する。 後半は、分析のテーマを設定し、実際に対話データを収集・分析してみる。 人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。
		情報知能特論 2 単位	計算機による知識情報処理の基本的考え方、方法論、応用、更にその論文等の読みとまとめについて学ぶ。
		情報・通信技術特論 2 単位	近年、インターネットの普及によりネットワークサービスの重要性は益々高まる一方である。本講義では、IoT システムに関する情報・通信技術の基礎的な知識を学ぶと共に、IoT 接続により実現される様々なサービスについてその概要や実現するための要素技術について学ぶ。また、IoT システムの構築を実施するうえで必要となる Linux コマンドの使用方法などについても演習を交えながら学ぶ。本講義では、必要に応じてグループワーク等を含むアクティブラーニングを活用し実施する。
		国際観光産業特別講義 2 単位	国際観光産業領域が提供する授業科目以外で、当領域に該当又は類似する科目を特別講義として開講する。